



増加傾向にある咳喘息とは

喘息を除いた**長引く咳の原因**の47.3%が、咳喘息となっています。咳喘息は健康な人と喘息との間に位置づけられます。炎症を繰り返すにつれて気管支の内側の気道が狭まっていきます。咳喘息をほっておくと、3～4割は喘息に移行すると考えられています。



咳喘息の特徴

①アレルギーによって起きる事が多い。

アレルギーを起こす原因物質にはハウスダスト、ダニ、スギ花粉、動物のふけや毛などがあります。

②夜間から早朝にせきができる。

夜間は「自律神経のバランスが崩れやすい」「睡眠中に口呼吸になり、気管支の粘膜が乾燥する」「寝具の中のダニを吸ってしまう」等が考えられます。

③日によって調子が変わる。

気圧や気温、湿度の影響で、台風や雨が近づくと症状が悪化する事があります。他には、かぜ、受動喫煙、過労、黄砂の飛散など、様々な要因で変わる事があります。

④ほこりを吸うと悪化する

大掃除や布団の上げ下ろし時にほこりを吸い込むと悪化することがあります。

⑤季節性がある

「スギ花粉が飛散する春」「雨の多い梅雨時」「ダニやハウスダストが増える秋」「かぜをひきやすい冬」など、悪化する季節があります。

ヒューヒュー、ゼーゼーなどの「喘鳴」のない**から咳**が8週間以上続き、レントゲン検査上異常のない場合は咳喘息を疑い、早めに受診しましょう。

咳喘息の治療

咳喘息は、一般的には咳止めでは効果がなく、**気管支拡張薬**で咳が軽減します。

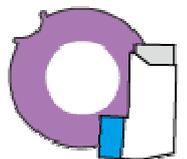
気管支拡張薬で咳が軽減すれば、咳喘息の可能性が高くなります。また副鼻腔性気管支症候群、胃食道逆流症、かぜが治ったあとの咳、アトピー咳などのような、咳を伴う病気の場合には気管支拡張薬は効果が現れません。

咳喘息の治療薬

気管支拡張薬と**吸入ステロイド薬**で治療します。

気管支拡張薬には飲み薬と貼り薬、吸入薬があり、その時々に応じて使い分けます。

吸入ステロイド薬は毎日使用し、気管支の炎症を改善します。気管支の炎症は症状が治まってもまだ残っています。自己判断で中止しないようにしましょう。



薬に関する注意点

気管支拡張薬は、カフェインの入った飲み物で、副作用の動悸、吐き気、頭痛などが出ることがあります。なるべく控えましょう。

吸入薬は、吸入後にうがいをすることで、のどのイガイガ感、痛み、不快感を予防することができます。

参考文献:今日の健康2011年2月号

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。

(お薬によっては時間がかかることがあります)あすなろ武川薬局

お薬・健康食品・サプリメント等についてのご相談を受け付けています(午後2時半頃～1時間程度)

TEL 0551-26-3800 FAX 0551-26-3810